

下水道使用料のR3.2.22答申に 基づく今後の検討について

令和4年2月24日

柏市下水道事業経営委員会

目次

1 R3.2.22答申の内容

2 答申に基づく検討事項とその現状

- ① 収支予測
- ② コスト抑制
- ③ 経費回収率100%に向けて
- ④ コロナ禍への配慮

⇒①～④を踏まえた当面の検討方針

1 R3.2.22答申の内容

令和3年2月22日付けの経営委員会からの中長期経営計画の見直しに関する答申の中で、下水道使用料改定の検討に関して次のとおり言及されています。

- ①収支の的確な予測 ⇒ 【①収支予測】
- ②コストの抑制, 投資量の制御 ⇒ 【②コスト抑制】
- ③経費回収率100%目指した使用料改定
⇒ 【③経費回収率100%を目指して】
- ④新型コロナによる市民生活や経済への影響に十分配慮
⇒ 【④コロナ禍への対応】

2 答申に基づく検討事項とその現状

検討事項①: 収支予測

【現状】 収益の根幹である「下水道使用料収入」は改善傾向
ただし、コロナ後の本格回復幅は不明確

- ・ R3年度上半期は 前年比+3%(+9千万円)
下半期は ほぼ横ばい
- ・ R2春の緊急事態宣言の影響が特に大きかったのではないか
- ・ 感染拡大の波が繰り返されており、平常時の増減見通しが困難

⇒ コロナ収束後に向けて注視し分析していく

2 答申に基づく検討事項とその現状

検討事項②:コスト抑制

【現状】 老朽管の更新費用見通し(ストックマネジメント)を精査中
流域下水道維持管理負担金の将来推移に留意を要する

- スtockマネジメントは管路包括委託業務の中で老朽化の現状を踏まえて精査していく
- 流域下水道維持管理負担金の近年の推移
H28:24.4億 H30:27.9億 R2:31.4億 R3:29.1億(見込)
(~R2分で5.9億の返還あり)
⇒ R4以降の決算見込を注視し、長期的な見通しにも留意していく

2 答申に基づく検討事項とその現状

検討事項③:経費回収率100%を目指して

【現状】 R3年度決算における経費回収率は改善の見込み
今後も使用料収入と流域下水道負担金支出の動向が影響

- ・ 経費回収率とは
下水道使用料収入 ÷ 汚水処理費用 × 100(%)
使用料収入が不足する場合100未満となる(使用料改定要否の目安指標)
 - ・ 近年の推移
H30:95.6% R1:98.1% R2:96.6% R3:100%近辺に改善の見込み
(R2に5.9億円返還を全て加味すると105.4%)
- ⇒ R3決算値, R4決算見込値, 長期的な見通しにも留意していく

2 答申に基づく検討事項とその現状

検討事項④: コロナ禍への対応

【現状】 在宅勤務, ステイホーム, 会食の自粛などによる使用料収入の伸び悩み
早期の完全収束は見込みづらい状況

- ・ 新型コロナによる経済への影響が大きい間は, 使用料改定の環境素地が整いにくいものと認識

⇒ 【当面の検討方針】

今後数年間の収支や資金繰りに大きな問題は生じない見通し

コロナ収束後に速やかな判断ができるよう, ①～③の状況精査を継続